

G S 連続シンポジウム 2010



まちづくりへのブレイクスルー このまちに生きる

第4回「都市文化を引き継ぐこと、積み重ねるまちなみ — 京都 宇治」



2010年3月6日(土) 15:00-18:00 / 東京大学 工学部1号館2F 土木演習室

入場料：一般/500円 学生/無料

主催/GSデザイン会議 後援/土木学会 景観・デザイン委員会

<http://www.groundscape.jp/>

サポート / (株)アトリエ74建築都市計画研究所、(株)アール・アイ・エー、(有)eau、伊藤鉄工(株)、(株)INAX、(株)イワタ、(株)内田洋行、(株)オオバ、(有)小野寺康都市設計事務所、(株)オリエンタルコンサルタンツ、(株)建設技術センター、(株)住輕日輕エンジニアリング、大成建設(株)、(株)竹中工務店、(株)長大、東京コンサルタンツ(株)、戸田建設(株)、(株)内藤廣建築設計事務所、(株)日建設計シビル、日本工営(株)、プロトフォルム、(株)文化財保存計画協会、前田建設工業(株)、三井不動産(株)、三菱地所(株)、ヨシモトボール(株)、(株)ワークヴィジョンズ



GS 連続シンポジウム 2010 まちづくりへのブレイクスルー このまちに生きる

GSデザイン会議では、まちづくりや空間デザインにおける、分野を越えた専門家間のデザイン体制(コラボレーション)の重要性を指摘し、その実践に取り組んできました。特に、複数の事業が絡み合ったまちづくりの場合、トータルな空間づくりが求められることから、コラボレーションという体制で多角的な視点から臨むことが重要となります。また、まちづくりは必ずと言ってよいほど様々な制約の中で行われます。これまでに実現した、成功とされるまちづくりの事例は、いわばその制約と戦闘してきた証であり、そこには今後に通じる知恵が数多く存在しているはずです。GSデザイン会議ではこうした知恵の共有化に向けたシンポジウムおよび出版を企画し、各地で孤軍奮闘している行政担当者や実務設計者、市民へ情報を発信していきます。

その一環として行う本シンポジウム「まちづくりへのブレイクスルー このまちに生きる」では、まちづくりにあたっての予算措置、発注方法を含む設計体制、制度の運用や活用などに焦点をあてた実質的な議論を行っていきます。毎回全国各地の実際の事例を取り上げ、関わった方々から直接その思いや経緯などをお話し頂きます。第四回は京都・宇治の取り組みから、まちづくりとまちなみ整備のあり方を問います。

プログラム

15:00-15:15 開会挨拶 篠原修(GS代表/政策研究大学院大学教授)

15:15-15:45 基調講演 木下健太郎(宇治市歴史まちづくり推進課)

15:45-16:15 基調講演 中西敏(宇治橋通商店街振興組合理事長)

16:30-18:00 パネルディスカッション+会場質問

進行役:中井祐(GS/東京大学大学院准教授)

パネリスト:木下健太郎(前出)

中西敏(前出)

井上典子(GS/文化庁)

西山徳明(九州大学芸術工学部教授)

18:00-19:30 懇親会(当日会場にてご案内致します)

登壇者略歴

木下健太郎 宇治市都市整備部歴史まちづくり推進課長

1959年生まれ。現在京都府八幡市に在住。昭和57年に立命館大学理工学部土木工学科卒。宇治市役所に入所後、道路整備を主に担当し、平成15年から都市計画課にてまちづくりを担当。大久保駅周辺地区的まちづくりなど、市民参画による計画づくりを手がけた。平成21年に歴史まちづくり推進課が新設され、課長に就任。現在宇治川太閤堤跡や文化的景観を活かしたまちづくりに取り組んでいる。

中西 敏 (株)朝日屋三元呉服店 代表取締役

1947年生まれ。立命館大学法学部卒。婦人服専門店チーン、三元株式会社に入社。主に婦人服の商品企画、業態開発を担当。その後、独立。地域密着型の婦人服専門店に業態転換し現在に至る。平成13年宇治橋通商店街振興組合理事長に就任。宇治商工会議所議員、宇治市観光協会理事などを歴任。

井上 典子 文化庁文化財部記念物課文化的景観部門文化財調査官

西山 徳明 九州大学芸術工学部教授

1961年生まれ。博士(工学、京都大学)。京都大学工学部建築学科卒業。同大学院修了。同博士後期課程研究指導認定退学。1992年より九州芸術工科大学助手、助教授を経て2003年より現職。1998年より国立民族学博物館客員助教授(併任、2004年まで)。萩市・うきは市・八女市・朝倉市・雲仙市の伝統的建造物群保存審議会等委員、文化庁文化審議会分科会企画調査会委員など。

中井 祐 東京大学大学院准教授

1968年生まれ。東京大学大学院土木工学専攻修了。(株)アブル総合計画事務所、東京工業大学社会理工学研究科助手、東京大学大学院工学系研究科助手等を経て、2004年より現職。工学博士。設計作品、設計指導に、岸公園(島根県)、宿毛河戸堰(高知県)、北上川分流施設(宮城県)、松田川河川公園(高知県)、第二西海橋(長崎県)、片山津水生植物公園(石川県)など。

第4回「都市文化を引き継ぐこと、積み重ねるまちなみ ー 京都 宇治」

我々の身の回りにある風景はいかに持続し、継承されるのか。まちなみを一つの時間に冷凍保存するのではなく、まちをいきいきとさせながら、どうやって持続してゆくのか。その一つの示唆を与えてくれるのが、文化的景観という概念である。文化的景観は、人の生活・生業という動的な要素を内包している点で、風景の持続という主題と相性がよい。

平成22年2月現在、全国で15カ所が重要文化的景観に選定されている。そのうち市街地を対象として選定されているのは、今回取り上げる京都府宇治市の「宇治の文化的景観」1件のみであり、他の14件は、棚田や流域など農山村の自然景観だ。從来、市街地において特筆すべきまちなみは、伝統的建造物群保存地区として、建築物や工作物などを歴史的評価に基づき保存するよう扱われてきた。しかしながら、時間が経過すれば、人の生活や生業も変化する。宇治のように市街地を文化的景観として扱うということは、まちなみを物体として凍結保存するのではなく、変化を許容しながらもいきいきと持続する術を模索するということだ。

琵琶湖から山間を縫うように流れる宇治川は、宇治のあたりにて平野に出る。宇治のまちは、この山紫水明というべき宇治川の景観に包み込まれるように広がる。宇治は、渡河点として古くから京都と奈良を結ぶ流通・往来の要衝とされてきた。平安時代には貴族の別業地とされ、この時期に建立された平等院をはじめ、宇治上神社などの史跡群が存在している。宇治川左岸に発達した市街地は、藤原氏が計画的配置によってもらたらした格子状を基本とする構成に基づいており、現在も宇治のまちなみの骨格として息づいている。中世以降、碾茶の生産が展開し、安土桃山時代から近世にかけて宇治茶としての評価が高まると、伝統産業としての碾茶が宇治の重要な生業となる。明治以降は、碾茶から玉露の生産へと転換したが、茶の生産は続き、宇治には茶文化に関する有形・無形の要素が継承されている。宇治川の自然に関係する山紫水明の景観。平安時代以来の史跡や、当時の地割を継承した街路・街区。宇治に展開した茶文化。これらが宇治の文化的景観を理解する三本柱であり、宇治のまちなみはその重層性の上に成立している。

宇治におけるまちなみの持続とは何であろうか。重要文化的景観としては、228.5haのエリアが指定対象範囲である。文化的景観の管理を行う上で、景観法に基づく面的な誘導や届出制度に加え、景観の重要な構成要素として13種類91件を選び出し、現状変更などに関する手続きを定めている。宇治川、宇治橋、古い道、茶畠や商店街などであり、これらの要素を重点的に管理する。文化的景観は変化を内包する概念である。それ故に、宇治を宇治たらしめる遺伝子のようなものを見失ってはならない。まちなみの創出ではなく、まちなみの保存でもなく、まちなみの持続。私たちが今各地のまちづくりで求められているのは、ヒロイックなビジョンではなく、自己同一性を失わず、変化を繰り返す生命体を育むことである。

参考申込方法/

WEBサイト <http://www.groundscape.jp/sympo/100306/> の応募フォームからお申し込みください。会員(個人・サポート・ユース)/非会員・氏名(ふりがな)・所属(会社名または学校名)・連絡先(メールアドレスまたは電話番号)・シンポジウム参加申込み人数・懇親会参加申込み人数をご記入の上、ファックスにてGSデザイン会議事務局まで送りください。尚、定員になり次第締め切らせていただきます。

問い合わせ先/

GSデザイン会議事務局

電話:03-5805-5578 / FAX:03-5805-5579

Web:<http://www.groundscape.jp> E-mail:info@groundscape.jp



写真1: 山紫水明 宇治川の景観



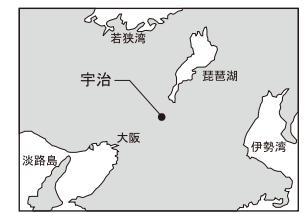
写真2: 商店街の街かどギャラリー



写真3: 商店街の様子



写真4: 平等院鳳凰堂



会場案内図

